

令和5年度 第2回 早島支援学校 学校運営協議会 【記録】

1 日 時 令和5年12月11日（月）13:30～15:30

2 会 場 岡山県立早島支援学校 大会議室

3 参加者 ・学校運営協議会委員10名
・学校（事務部長、副校長、各部教頭、主幹教諭、進路指導主事、交流ボランティアチーフ、指導教諭）11名

4 内 容

（1）開会行事

①開会挨拶

<校長>

校長：委員変更のお知らせ

あいさつ

校長：最近の学校の様子を紹介。

指導中はマスク着用し、感染症対策を取りながら児童生徒と関わっている。

本日は、学校経営計画の重点項目について報告し、後半は、学校評価について報告する。

②日程説明

<事務局>

副校長：（日程について要項で説明）

最後に全員の委員の方からご意見をいただきたい。

記録、写真はHP、SNSで紹介させていただく。

（2）説明・協議

<進行：会長>

中島会長：挨拶。

重点項目について報告をお願いします。

○重点協議事項「地域に開かれた学校づくり」に関する取組の実施状況について

① 学校支援に関する取組

<担当教頭>

(1) 進路学習、産業現場等における実習（西山）

「産業現場等における実習（現場実習）」について

- ・ 高等部1年生後期より現場実習を行う。現場実習先は原則見学を終えている事業所に行っている。
3年生の現場実習先は必ず進路先として希望するところ。

（進路についてスケジュールの確認）

高等部卒業後はアフターケアを行っている。

「校内実習」について

- ・ II類型の生徒を対象に行っている。
- ・ 肢体不自由部高等部；事業所ふぁ～すと様から依頼を受けて実施した。
- ・ 病弱部・肢体不自由部中学部；働くことのイメージが持てるように取り組んだ。

「日々の授業」から

・肢体不自由部高等部販売学習（文化祭）

Ⅱ類型、Ⅲ類型の授業の中で製品をつくり販売を行った。地域でも販売を行った。

・社会人講師授業

11/17金 JFE アップルより2名来校。生徒はメモを取りながら質問などを行った。

「福祉の参観日」について

- ・昨年度より対象事業所を拡大して実施した。進路先の事業所を中心に来校、見学いただいた。今年度は、高等部全学年の進路先、見学先を、20事業所から37名、2日に分けて実施した。見学ののち、希望者には給食の様子を見ていただいた。

（実施後のアンケートの紹介）

有意義な参観となった。

(2) 学校支援ボランティア（仁科）

「花植えボランティア」

今年度から新たに開始。株式会社あさひさんの従業員の方に来校していただき、A小やB小の児童が花の苗植えを行った。意欲的に行い、花を咲かせて楽しむことができた。生け花もいけていただいた。

「福来朗の会」

4年ぶりの実施。希望の学部も多く、26回の開催となった。福来朗の会の方に各学部で絵本の読み聞かせをしていただいた。福来朗の会の方の人脈でオカリナの演奏やキーボード演奏などがある日もあった。

中島会長：ご意見、質問があれば。

三好委員：学校支援ボランティアについて。募集を行っているのか。

末吉教頭：今、要項、案内を整えているところ。この後紹介する。

② 地域連携・地域貢献に関する取組

<担当教頭>

(1) 南岡山医療センターとの合同防災訓練（斉藤）

- ・災害時に本校は地域の避難場所。病院との連携も必須。
- ・緊急性の高い児童生徒の搬送を想定し、役場、病院との合同訓練を7月に実施。
- ・手順、経路、必要物品、搬送場所等の確認を行い、イメージを共有することができた。
- ・実際に行ったことから出た課題を解決するため、今後第2回目を12月15日に予定している。

(2) 学習製品販売（江口）

- ・昨年度から始まった事業を今年も実施した。
- ・早島町社会福祉協議会と連携し、肢体不自由部の中学部・高等部の生徒が作成した製品を販売した。（期間：11月27日（月）～12月8日（金））
- ・昨年度の実施を活かし、分身ロボット Orihime を活用して（ひまわりの会から借用）、地域の方とやりとりをしながらの販売をした。
- ・ポスター（肢体不自由部生徒作成）や学校紹介カード（病弱部高等部生徒作成）も生徒が作成して、学校理解の促進を図った。

- ・ 地域の方に来ていただき、ロボットを通じてコミュニケーションを取りながら接客することができた。
- ・ 山陽新聞、倉敷ケーブルテレビでも取り上げていただいた。（※倉敷ケーブルテレビでの報道の様子動画の紹介。）報道を見てきた方もいた。

(3) 地域での学校紹介（仁科）

- ・ 今年度も早島町で実施されている「はやしま生涯学習まつり」の「子どもたちの作品展」に参加した。（期間：10月5日（木）～18日（水）、場所：中央公民館）地域の方に本校の児童生徒の作品を見ていただくことができた。
- ・ 早島町社会福祉協議会の「障がい者作品展」に参加し、作品を展示した。（期間：12月2日（土）～12月9日（土）、場所：早島町地域福祉センター「オアシス早島」1階ロビー）
- ・ ホームページやFacebookによる学校の紹介を充実させるために、週2回程度から毎日、更新する日も増えている。Facebookのフォロワー数が増加している。アップしている内容を、玄関の2か所に掲示して、QRコードをつけることで、見た人がすぐにアクセスできるようにしている。

(4) 学校間交流、居住地校交流（仁科、末吉）

・ 居住地校交流

共生社会を目指すために実施している。

令和5年度参加率 26.7%（↑）、と上昇した。【R2年度 5.7%、R3年度 7.8%、R4年度 22.1%】

県の4次プランでは高い目標設定となっており、今はそこまでに至っていないので、今後近づけていきたい。

・ 早島町内

「早島小学校」

4年生と本校肢体不自由部、病弱部との交流では、お互いの学校紹介のパワーポイントを利用して事前学習を行う。3学期にオンラインでつながり、それぞれの学校に関するクイズなどをして交流する予定である。

「早島中学校」

早島中の美術部の作品を借りて文化祭で展示を行った。また、今年度は本校からも早島中へ作品を送り展示していただいた。お互いの作品を見ての感想を生徒が書き、交換した。

どちらも質が高い交流となった。

・ 高等学校との交流

肢体不自由部高等部

「関西高校」「興陽高校」「本校肢体不自由部高等部」の3校での交流を行っている。

今年度は、明日12月12日に実施予定。関西高等学校吹奏楽部が来校し、演奏を聴いたり、クイズゲームをしたりと親睦を図る。

興陽高等学校和太鼓部は録画したビデオでの参加予定。

生徒会役員でオンライン打ち合わせも実施し、生徒主体で交流を進めている。

病弱部高等部

4年ぶりに「高松農業高校」と直接交流を実施。高松農業高校に行き、一緒にガトーショコラを作った。報道関係者も来校し、交流の様子がテレビニュースに流れた。

(5) センターの機能 (秋元)

・公開講座・エリア研修会

目的：本校が地域のセンター的機能を果たすため、地域の教職員等を対象に特別支援教育に関する講座やエリア研修会を開催する。

関係者の専門性の向上と特別支援教育の充実を図る。

日時：令和5年8月24日(木)

・院内学級担当者会との連携

「病気療養児童生徒の現状と支援について」の研修と院内学級の参観

(補足)

末吉教頭：ボランティアについて。ボランティア募集の要項をまとめた。必要に応じて、資料を配布していく。学校としては、働き方改革の視点もあり、ボランティア利用の活性化をねらっていききたい。

三好委員：居住地校交流について。どのようなプロセスで実施するのか。

末吉教頭：意義、意思等を保護者に説明し、確認して実施している。

副校長：交流校の児童にも学びの場として考えている。本校教師が資料を作成して事前学習をする場面もあった。

佐宮教頭：居住地校の児童だけでなく、保護者も、地域の方に知っていただきたいという思いがある。

中島会長：早島町での販売に行かせてもらった。ひまわりの会の岡本様にも会い、大人も子どもも初めての機会になった。岡山にいながら東京でオリヒメを使って働いている人がいると聞いた。オリヒメの動きがかわいらしくてよかった。販売は、どれくらい売れたのか？

仁科：エコたわしは、40数個完売した。まだ、計算が終わっていないが、たくさん販売することができた。

③その他

副校長：大学の實習も、介護等体験を今年久しぶりに実施した。

中島会長：ボランティアの要項はいつ整うのか。自分も大学に行っているのだから、まとまったら資料を配布出来る。

中元委員：早島町の販売ではカレンダーなど、いいものを買うことができた。(製品の紹介)

副校長：障害作品展では、地域の小学校が中学校と同じように展示してあり、地域の方が「早島支援学校の作品だ!」と言って、見ていただいている様子を見かけた。

校長：作品展では多くの意見をいただいた。今後ご助言をいただきたい。

(3) 各委員から

名倉委員：児童生徒の実態、体調によって、オリヒメを使うなど、児童生徒に合わせた活動となっていて充実していると感じた。就労支援の立場から、売り上げをどのように使うかも、児童生徒と考えてもよいと思う。自分の頑張りが認められるようになるとうい。

ボランティアについて、地域との関係を作る意味合いもあるが、これだけのものを準備する中、教師の負担も考えながら取り組んでいただきたい。医療、福祉系大学や専門学校の学生も興味を持っているはず。そこで配ってはどうか。

野中委員：新しい取り組みに、社協も協力したい。ボランティアについて、希望を具体的に言ってもらえたら紹介

ができる。岡山県でも相談可能。

作品展の期間中に、実際に生徒が現場に行き直接作品の紹介をするなど、いろいろなやり方もできるのでは。

藤本委員：コロナ禍で止まっていた交流も、オンラインで行うなど、好評だった。オンラインで早島の児童の顔が映ると親近感を持って見ていた。ポスターも、早島小の保護者には、Google クラスルームで配信して紹介した。3 学期の交流は検討中だが、直接会えることも楽しみにしている。

三好委員：オリヒメカフェに行ったことがあるが、接客は沖縄からだった。どうすれば、児童生徒に声が届くのか。販売の場所にタブレットを置き、お客さんからショート動画をもらうなどの方法もある。学校の事務室受付などにタブレットを置き、メッセージをもらってもいいのでは。

上仲委員：居住地校交流では、直接会う機会を楽しみにしている。毎年参加をしたい。

(4) 閉会行事

副校長：次回は 2/28 金午後に予定している。

学校評議員

氏名	職名
谷本 安	独立行政法人国立病院機構 南岡山医療センター院長
野中 亨介	早島町社会福祉協議会 事務局長
中島 英彦	倉敷市役所保健福祉局こども未来部子育て支援課
名倉 彰子	岡山障害者職業センター 所長
中元 保子	早島町愛育委員会 会長
藤原 雅裕	株式会社 First 就労継続支援 B 型事業所ふぁ～すと 代表取締役
三好 祐也	ポケットサポート 代表理事
藤本 真砂子	早島町立早島小学校 校長
久本 晃司	岡山県立早島支援学校 校長
花元 晴美	本校 P T A 会長

※ この後、引き続き学校関係者評価委員会を行います。